

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

議長より登壇の許可をいただきましたので、一般質問を始めます。

まず、年末でございますが、衆議院選挙真っ最中でございます。－[発議淵]－党員といたしましては、（発言する者あり）12月16日に政権与党に復帰できますことを信じております。

（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

古川議員、そういうあれは触れないようにしてください。

○10番（古川盛義君）（続）

続きまして、（発言する者あり）武内町におきまして町民の悲願でございました公民館建設が順調に進んでおります。

○議長（杉原豊喜君）

古川議員、先ほどの[発議淵]という選挙の党名は削除させて……

○10番（古川盛義君）（続）

すみません、先ほどの[発議淵]という党名は削除させていただきます。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

質問を続けてください。静かに。

○10番（古川盛義君）（続）

質問を続けます。

樋渡市長、執行部におきましては、武内公民館建設期成会の要望を十分に取り入れていただき、まことにありがとうございます。また、予算審議におきまして、議員各位の御理解があったればこそと深く感謝をいたしております。完成まで、執行部並びに議員各位の御指導、御協力をよろしくお願い申し上げます。

質問に入りますが、市政事務に対する質問、私なりの提案をいたしてまいりたいと思いません。

まず、農政問題の中で、特にイノシシ問題についてお尋ねをいたします。

先日、佐賀大学農学部の方にお尋ねをいたしたところ、野生生物は自然界で増加と減少を繰り返してきたと、今現在イノシシが増加傾向にあるのか減少傾向にあるのか、データが不足して判断はできないということでございました。まず、ここで数年間のイノシシの捕獲状況をお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

ここ数年のイノシシの捕獲状況ということで、モニターをお願いします。

（モニター使用）平成16年度につきましては1,480頭、17年で1,236頭、18年1,557頭、19

年1,308頭、20年2,152頭、21年837頭、22年3,464頭、23年1,869頭、それから、ことしが駆除期間の10月末で752頭となっております。ことしも昨年並みの捕獲になるかと予想はしておりますけれども、グラフのとおり、捕獲頭数が隔年ごとに増減をしているというふうな状況になっております。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

現在は、電気牧柵やワイヤーメッシュの設置により、農作物の被害というのも多少は減ってきておるんじゃないかと思いますが、被害状況などわかりましたらお知らせください。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

モニターをお願いします。

（モニター使用）農産物の被害ということで、これは農業共済組合の調べによりまして、共済組合の支払い対象になった分でグラフ化をしておりますけれども、水稲、大豆、ミカン等の被害で平成16年が2,740万円、17年が770万円、18年が1,580万円、19年が470万円、20年が1,440万円、21年が470万円、22年が1,260万円、23年が430万円となっております、ごらんのとおり、捕獲頭数に比例して、隔年ごとに増減をしておりますが、防護、捕獲、すみ分け等の被害対策によりまして、年々被害額も減少をしております。

ほかに被害としまして、市道や農道、林道、水路、ため池等も被害が多く発生しております、今後も対策を引き続きやっていく必要があるかと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

グラフを見ますと、被害防止策として電気牧柵、ワイヤーメッシュ等の設置が有効に働いておると思われま。今現在の武雄市での電気牧柵、ワイヤーメッシュの設置状況を、まずお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

武雄市内における侵入防止柵、これはワイヤーメッシュや電気木柵の設置状況ということですが、（モニター使用）平成21年度にワイヤーメッシュ柵においては7,784メートル、それから、電気牧柵については、154台の6万5,655メートル、地区数が17地区ありました。今の分が平成20年度、黄色の分が電気牧柵で、赤の分がワイヤーメッシュということに

なっております。

22年度におきましては、ワイヤーメッシュが1万6,276メートル、これは青の部分ですね、それから、電気牧柵が108台の4万2,071メートル、実施地区数が27地区というふうなことになるなっております。

平成23年度につきましては、ワイヤーメッシュが12万5,798メートル、電気牧柵が225台の9万3,093メートル、実施地区が52地区というふうなことになるなっております。

それから、平成24年度におきましては、ワイヤーメッシュが7万6,000メートル、電気牧柵が100台、延長にしまして4万2,315メートル、実施地区が44地区というふうなことになるなっております。今、総数でいきますと、ワイヤーメッシュ柵で22万5,858メートル、電気牧柵が7台で24万3,134メートルというふうなことになるなっております。

**○議長（杉原豊喜君）**

10番古川議員

**○10番（古川盛義君）〔登壇〕**

この表を見ますと、相当の距離数が設置されておると思います。ワイヤーメッシュも電気牧柵も耐用年数があると思います。設置後の維持管理、それから耐用年数など、わかりましたら教えてください。

**○議長（杉原豊喜君）**

森営業部長

**○森営業部長〔登壇〕**

ワイヤーメッシュや電気牧柵の耐用年数ということですが、耐用年数はワイヤーメッシュで14年、それから電気牧柵で8年となっております。

維持管理については、設置された地元行政区においてお願いをしておりますが、効果を十分に発揮し、継続的な被害対策を行うためには、防護柵周辺の草刈りを頻繁に行い、漏電防止やイノシシが近寄りやすい環境をつくる必要があります。

モニターのほうですけれども、（モニター使用）これはワイヤーメッシュのよい例と悪い例をしておりますけれども、ワイヤーメッシュの付近を除草することによって、見通しがよくなって、私たちも見ることができますし、イノシシも近寄りたくなるというふうなことになるなっております。

それから、悪い例でいきますと、山と余り変わらないような状況で、イノシシが入り込みやすい状況になっているというふうなことになるなおります。

これは、電気牧柵ですけれども、下刈りが十分になされておまして、これが電気が流れている状態であります。悪い例は、もう電気が漏電をしておまして、電気が流れていないというふうなことで、イノシシが容易に入ってくるというふうな状況になっておまして、定期的なパトロールや管理を行ってもらって、良好な維持管理に努めてもらいたいというふ

うに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

電気牧柵もワイヤーメッシュも相当数設置ができておるようでございますが、地域要望があつて設置されておると思うわけですが、どれくらいの割合で設置ができたものか。また、今後、未設置のところから要望があつた場合に、どのような対応をとられるのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

地元からの要望については、事業の要件と照らし合わせて、要件を満たすものについては、国へ申請してまいりまして、平成21年度から23年度は要求どおり実施することができましたけれども、平成24年度は国の予算が不足しまして、一部できない行政区もありました。平成25年度におきましても、要望量の調査を今実施しているところですが、補助事業を積極的に活用しまして、地元要望に応えていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

今後もイノシシ等の鳥獣被害に対して、御指導をよろしく願いいたしておきます。また、少数ではございますが、シカを見たというような話も聞いております。また、河川の堤防といますか、堰堤ですか、アナグマが穴を掘り、堤防を崩す危険があるというようなことも聞きました。今後とも注意していただきたいということをお願い申し上げまして、次の質問に移ります。

下水道事業についてお尋ねをいたします。

現在、市において公共下水道事業と農業集落排水事業、戸別浄化槽事業の3事業に取り組んでいただいております。私が住んでおります武内町多々良というところは、山内町と武内町、若木町の水が流れるところでございます。ちょうど国の管理の萩ノ尾堰と、今後指定になりました馬ノ頭というところがありますが、その中間に大きな水たまりがございます。例年、渇水期になりますと、そこにアオコが張りまして、非常に悪臭もあつたわけでございます。ここ数年でございます。こういう事業の効果かと思われませんが、そのアオコの発生が見られないようになってきております。これも生活排水処理の効果であろうかと思っております。

また、合併当時、周辺部におります私たちは、生活排水処理がなかなかできないというこ

とで考えておりましたが、戸別浄化槽事業が開始をされ、排水処理ができるようになりました。これも一つの効果であろうと思います。また、私が住んでおる多々良の川でございますが、以前は余り魚もおりませんでした。しかし、今はメダカ、ハヤ、それから、ホタルの餌のニナとかコイとか、たくさんの魚がすむようになってきております。その分、水がきれいになったということであろうと思います。

そこでお尋ねいたしますが、現在の武雄市において、生活排水処理の普及率がどのような状況にあるのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

平成23年度末の普及率を申し上げます。

全体的にいけますと、54.7%になっております。人口で見えますと、市内人口5万1,000人に対しまして2万8,000人に普及しているということかと思えます。

内訳を申し上げますと、公共下水道、これは供用が開始してまだ余り時間がたっておりません。2.4%でございます。農業集落排水で20.7%、それから戸別浄化槽につきましては、これは市町村型、あるいは個人ではめられる方を含めまして31.6%ということになっております。なお、県の平均は75.6%でございます。人口にしてみますと、85万人に対しまして64万人に普及しているということだと思えます。

なお、合併後の普及率の向上でございますが、合併後23年末で約13ポイント向上をいたしております。県平均に近づいてきたというふう感じております。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

県平均が75.6%で、54.7%が当市の普及率と、一日も早く県平均を超えますように努力をしていただきたいと思います。

それから、会計処理の問題でございますが、現在、下水道会計は公共下水道特別会計と農業集落排水事業特別会計と戸別浄化槽事業特別会計の3つの特別会計で処理をされておられます。3事業に分割をしておりますと、下水道事業の全体像というのがなかなか見えにくいと思われま。

そこで、下水道事業全体がわかりますように、3特別会計の統合をして、下水道事業特別会計として一本化してはどうでしょうか。予算、決算など分析がしやすくなるという面もあると考えますが、この提案をどのようにお考えでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

## ○樋渡市長〔登壇〕

この問題は、以前もう4年ほど前ですかね、松尾陽輔議員さんが特別会計の議論の中で一本化すべしだということをお初めとして、さまざまな議員さんから御指摘があって、今まで研究に研究を重ねております。確かにですね、私も説明を受ける立場にもあるんですけども、私がおわかりにくいということは、議員も同じですけど、それは市民の皆さんたちにとってもおわかりにくいということと一緒ですので、この際、一本化します。3特別会計を一本化します。

その年度については、ちょっとこれ、いろんな力作業とか仕込み作業とか、職員の研修等が必要ですので、26年度からにさせていただきたいと思っております。26年度の予算から、3特別会計は一本化をいたします。その上で、組織についても見直しを図りたいと思っております。

これは議会の条例事項になりますので、議会に御判断を委ねることになりますけれども、しかるべきタイミングで、水道部とこの下水道課を一体化させて、部に一本化します。ですので、仮称で上下水道部にして、今までのあり方を水に流したいと、このように思っております。この単一の部で水道会計、工業用水道会計と3本を1本にした公共、農業、戸別を一本化したので2本立てでいきたいと。この一本化というのはやらないほうが良いと思うんですよ。やっぱり上水と下水をまぜるようなものですから。ですので、ここはきちんと2つに分けて、議員が御指摘の、議会から以前から御指摘があって問題点のありました一元化については、お約束をしないと、このように考えております。

## ○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

## ○10番（古川盛義君）〔登壇〕

早速に前向きな答弁をいただきまして、ありがとうございます。今後とも市民生活向上のために、なお一層努力をいただきたいと思っております。

次に、企業誘致についてお尋ねをいたします。

若木工業団地に2企業が進出して、完売したということですが、大変喜ばしいことでございます。企業立地課の努力に対して厚く感謝するところでございます。そこで、進出企業の地元雇用なり、創業時期なりをお尋ねいたします。

## ○議長（杉原豊喜君）

北川営業部理事

## ○北川営業部理事〔登壇〕

企業誘致についてということで、若木の県営武雄工業団地への誘致ということでございます。6月議会、それから9月議会に御報告を申し上げましたように、三京ステンレス鋼管株式会社と6月に進出協定を行っております。それから、この三京ステンレスにつきましては、これは旧九州カイロンの工場跡地に入ったということで、今、改装を含めてですけども、

7月13日に起工式を行いまして、来年3月の操業に向けて、今、内部改修、あるいは工場開始に向けての準備がなされているところでございます。

それから、9月議会で報告いたしましたタケックスでございます。これは今現在、朝日町中野地区でございますが、昭和45年に進出をされて、40年近く操業されてまいりましたが、その後の操業と申しますか、拡張等が繰り返されまして、手狭になったというふうなことで、タケックスが若木工業団地の1.1ヘクタールの団地の用地の中に進出を決定されまして、この11月12日に起工式をされております。操業開始は来年25年の5月というふうなことでございます。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

地元雇用はどういうふうになっておるでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

すみません、雇用につきましてでございます。この2社によりまして現在予定をされておりますのが、大体、三京ステンレス鋼管会社で約30名というふうなことで、既に地元雇用の募集をされて、ほぼ内定をしているというふうなことでございます。また、タケックスにつきましては、今、中野地区に95名ほどの従業者ございますけれども、これを若木町のほうに移しまして、大体110名ほどに順次ふやしていきたいというふうなことでございます。

この2社が入りましたことで、全体で10社、合計で雇用者総数については550名でございます。この団地につきましては、平成2年の4月から分譲開始を始めまして、約22年間で完売というふうな状況になりました。

申しおくれましたけれども、市議会を初め、この間御協力いただきました関係者の皆様にお礼申し上げたいというふうに思います。どうもありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

もう1つ、山内にも企業進出しておると思うんですが、その山内のこともつけ加えていただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

山内の工場というふうなことで、昨年の23年7月に操業開始をいたしました、大阪に本社

がございます富士精機製作所についてでございます。この工場につきましては、山内町の堀切団地に入居をいたしまして、昨年から操業をしておりますけれども、大体3年計画で30人雇用をするというふうなことで始まりましたが、もう既に本年度いっぱい30名の雇用をいたしていただいております、市内従業者がそのうち24名というふうなことで、ここについても非常に前倒しで順調に操業をいただいております。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

武雄も山内も非常に順調に推移しておるということでございますが、北方の工業団地について、今現状はどのようになっておるか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

北川営業部理事

○北川営業部理事〔登壇〕

武雄北方インター工業団地でございます。これにつきましては、昨年10月に分譲開始をいたしまして、分譲面積18ヘクタールを現在分譲いたしているところでございます。これにつきましては、企業訪問等による情報収集、あるいは企業誘致のイベントへの参加、御承知もございませんが、東京モノレールの広告等情報発信を、県と連携をしながら行っております。

しかしながら、昨今の経済情勢は非常に厳しいものがございまして、我々、交渉に行った際にも、非常に企業を取り巻く6重苦といいますか、非常に環境が厳しいというふうなことで、円高、あるいは電力不足、法人税というふうなところを言われますし、海外への進出を考えているとかいうふうなことで、非常に国内立地に対する風当たりが今は厳しゅうございます。

そういうことで、引き合いにつきましては、ある企業についてはあるわけですが、その企業が求める面積というのが非常に小さいといいますか、狭いものですから、現在の武雄北方インター工業団地につきましては、18ヘクタールをできれば一括で分譲したいというふうなことを、県とも申し合わせしております。できれば18ヘクタール、あるいは小さくても5ヘクタール以上というふうな分譲の方針として持っております。そういった中で、現在の引き合いが、非常に面積的にじっくりいくものがないといいますか、小さいものが多いものですから、具体的な進出の話にまでつながっていないというような状況でございます。

ただ、これまで1年間、先ほど申しました情報発信を含めて、武雄北方インター工業団地の誘致につきましてはアピールをいたしてまいりました。この結果、これ以外の市内の工業団地、若木含めて誘致をいたしてきた結果が、1つ今回の若木への2社の立地というふうなものにもつながったのかなというふうな、手前みそですが、感じております。



ただ、現在、武雄北方工業団地につきましては、まだ入居決まっておられません。今後も引き続き県と連携をしながら、早期立地に向けて取り組んでいきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

身内で言うのもなんですけどね、北川理事初め、担当の職員は本当によく頑張っています。重ねて言いますが、その頑張りの結果が、若木の工業団地であったりとか武雄の知名度の向上につながっていると。ただ、やっぱりいろんな企業経営者と私も話をしますけれども、この円高じゃ、やっぱり無理だということで、実は日経新聞でしたかね、サムスンがウォン高になってきて、非常に経営が今までどおりにはいなくなっていると。あの世界のサムスンがですよ。ですので、実際レートを見てみると、日本からしても、かなりウォンがやっぱり安いんですよ、円の実力からすると。それなのに、ちょっとウォン高になっただけでサムスンが——僕は日経新聞しか、ここは読んでいませんけれども、もう悲鳴を上げつつあるということで、事ほどさように、この為替というのが企業誘致の大きな要因になります。

我々が古川知事と話して、黒岩幸生議員を初めとして議員さんに御協力をいただいて、工業団地を設置したときは、まあ、円は90円から100円だろうなということをおっしゃいました。ですので、おおよそ日本の実力からすれば、恐らく政権が変われば——変わるとおっしゃいますが、あれなんですよ、円安に多分振れていくんですよ、今までの言動からすると。そこが一つのポイントかなとは思っています。

一方で、我々としては、そういう重厚長大もちゃんとやりますけれども、起業家をやっぱり集めたいと思うんですよ。今、何人か、もう起業家の人たちが武雄の魅力を感じて、移り住んできておられます。ですので、もっと起業家をふやして、その起業家に業を起こしていただいて、その人たちが雇用を達成するということをしてほしいと思いますので、ぜひ議員各位におかれましては、批判も当然あっていいと思うんです、我々がやっていることについて批判もあっていいと思うんですけれども、起業家を集めるためにどういう方策があるかということも含めて、我々のほうに教えていただきたい。多分、市民はそれを望んでいると思うんですよ。ですので、それはぜひお願いをしたいと、このように思っております。

長くなりましたけれども、企業誘致に関しては、大中小、一生懸命やっておりますので、また議員各位におかれましては、情報がありましたら我々のほうにお伝えをいただければありがたいと、かように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

一日も早く進出企業が来ることを願っております。

これは、3月議会で質問がございまして、ちょっと触れられたわけですが、ここにこういうのがあるんですが、（資料を示す）これに書いてございます。（発言する者あり）これでございます。多分皆さん御存じだったろうと思います。日本共産党市議団ニュースということでございます。そこの一番下に、自衛隊の歩行訓練のことについてびっくりしたと、傲慢じゃというような意見がございました。そこで、正確にお答えをいたします。

これは久留米の陸上自衛隊の幹部候補生学校の歩行訓練でございます。（「議長」と呼ぶ者あり）この歩行訓練は、8月と11月、2月の3回行われております。（「議長」と呼ぶ者あり）武内町におきましては、武雄市防衛協会、武雄市父兄会、それから、（発言する者あり）黙っててくださいよ。

**○議長（杉原豊喜君）**

静かに。（発言する者あり）

**○10番（古川盛義君）（続）**

武雄市隊友会、それから武内町の区長会、それから武内町の有志、それから保育園の園児さんというところで、激励会を行っております。それで、九州8県を見まして、自衛隊の基地が存在しないというのは佐賀県だけでございます。これは実動部隊がないということでございます。そこで、玄海の原発を抱えておりますが、鹿児島市の川内市を考えますと、市内に基地がございまして、佐賀県に3つございまして、福岡に12、長崎に12という基地があるわけですが、これは陸海空合わせてでございます。佐賀県は目達原に補給基地がございまして、それと、鳥栖に給油基地がございまして、それで、脊振にレーダー基地がございまして、実動部隊は存在しないわけでございます。それで、武雄の防災計画にも、久留米の第4師団に応援をいただくということになっております。

当市においても以前、自衛隊の誘致ということを検討された経緯があるということも聞きました。先ほど私は企業誘致について質問をしたわけですが、今も関連しておるわけですが、この自衛隊誘致というの、企業誘致の一つの選択肢ということで、検討したらどうだろうかという提案でございます。

〔市長「答えます」〕

よろしく申し上げます。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

共産党さんのニュースを余りここで言わないほうがいいですよ。東スポと一緒にですから。私がちょっとお答えをしたいのは、企業誘致と自衛隊の誘致というのは同列には並ばないと思っております。これやっぱりね、自衛隊の場合は、自民党さんが国防軍と改称するというこ

とおっしゃっていますとおり、もう私もこれは軍だと思っていますので、まず、1つの関門は、軍事上の観点から、この佐賀県が、あるいは武雄市ならばどういう位置づけになるかというのは、我々が物を申す立場じゃありません。それと、仮に自衛隊、防衛省が、あるいはこれは内閣と言ってもいいかもしれませんが、いや、佐賀県は軍事上の位置づけがあるということをした場合に、さすれば民意はどうなのかということ。あくまでもこれは軍ですので、これは広く民意を問う必要があるだろうということはありません。これは住民投票になるのか、あるいは、これは誘致される皆さんたちが選挙の際に問うのか、いろんなパターンがあると思うんですけれども、これは民意を、議会のみならず、やっぱりこれは広く民意をとる必要があるだろうというのが第2点。

それと第3点に、例えば武内町にそれが位置したとしましょう。きょう、区長会長がお見えになっていますけれども、そのときに地元はどうなんだということ。これについても、土地の問題であるとか、例えば騒音の問題であるとか、さまざまな問題は、地元が一番そこは御心配をされるところでもありますので、この3つが合ったときに、やはり広い意味での誘致になるだろうと思っています。

ただ、個人的に言えば、私は自衛隊の皆さんたちに関しては非常に感謝をしております。災害の場面であったりとか、やっぱり自衛隊の訓練を見れば、本当にありがたく思っております。ですので、そういった意味から、私はもう共産党と全然見解が——大体全てにわたって違っていますけれども、この観点に関しても、私は議員さんと同じ見解を一致させているところであります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

10番古川議員

○10番（古川盛義君）〔登壇〕

これで私の一般質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

先ほど江原議員から、質問を許可するかということでございましたけれども、ただいま質問を聞いて、皆さんおわかりだと思います。企業誘致に関して質問をされて、自衛隊のいろんな訓練とか、そういう誘致をしても、そういうのに値するんじゃないかということで、古川議員は申されたと思っておりますので、そこら辺を加味して質問を許可したところでございます。

以上で10番古川議員の質問を……

〔23番「議長、議事進行」と呼ぶ者あり〕

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）

今の議長さんの発言は、そのとおりだと思います。素晴らしいことだと思うんですね。しかし、私がもしそこにおったら、やっぱりそういう場合は非常にあがりますよね。だから、結果的に最後にこうだと言われればいいんですけども、先ほどもありましたけれども、質問の途中には言わないというのが約束だったと思うんですよ。先ほど何とか朝日新聞——朝日新聞じゃなかったですね、週刊誌を言われて、我々はわからない。質問がおかしいところであっても、やっぱり我慢して聞いているわけですね。そして、何かあったら、最後に、終わったところと言うというのが約束だったと思うんです。私、今までそれはたびたび言いよったですね、正常化するために。大分怒られました。だから、今の采配でいいですから、そこをきちんと守って、ほかの不規則発言ということで、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

#### ○議長（杉原豊喜君）

ただいまの議事進行、本当にありがとうございました。そこら付近をですね、質問されている方も途中でそういうことを言われたら、なかなか緊張して、戸惑う面もあられると思いますので、そこら付近は十分な配慮をお願ひしたいと思います。

〔26番「議長、議事進行」〕

26番江原議員。

#### ○26番（江原一雄君）

1点です。いわゆる古川議員の3点目の質問は、企業誘致についてですよね。るるの間進めてこられた企業誘致について質問をされておりました。3点目で、いわゆる私の会派、日本共産党が発行しております日本共産党市議団ニュースの中の文言について指摘をしながら、質問をされました。ですから、それと、最後に結果として、企業誘致とあわせて、その企業誘致の中に、いわゆる企業の誘致とあわせて、別格に自衛隊の誘致の件を質問されました。私は、その因果関係は最後になってわかりました。ですから、今の指摘のように、いわゆる固有名詞で私たちが発行しておりますチラシ、ニュースにつきまして引用されましたので、その最初の出入り部分はね、ようわかりませんよ、中身の質問が。ですから、そういうやり方で、私はそれはおかしいではないかという疑義を、議長に取り計らいをお願ひしたわけです。そういう意味では、（発言する者あり）私は今回の、今の、だから最後の議長の結果の説明でわかりましたけれども、固有名詞を使っていわゆる論陣を張られておりますので、そこは聞いている、同じ議場における私にしたら、指摘は、引用がちょっとおかしいということで疑義を唱えたわけですから、そういう意味では、ちゃんと質問するときね、願わくは、ちゃんとそういう形で質問していただくようにレクチャーされておると思いますので、そこはちゃんと注意しておっていただきたいと議長に申し述べておきたいと思います。いかがでしょうか。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに。ただいまの議事進行については、先ほど23番黒岩議員が指摘された、もう最後まで聞かなければ質問の内容はわからないということですよね。そこら付近で十分な配慮をしてくださいと、議員の各位にお願いしているところです。

以上で10番古川議員の質問を終了いたします。